

科目名	作業療法特論Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必須	配当学年 時期 3年 後期
【授業の目的・ねらい】 臨床現場の実践を学ぶ							
【実務者経験】 作業療法士として公立社総合病院、介護老人保健施設あさぎり むつみ荘にて身体障害領域の急性期から回復期までのリハビリテーションの従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 各臨床現場の状況や作業療法士の実践について講義や演習を行う。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 幅広い作業療法士の実践現場を知り、臨床実習に役立たせることができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	地域における就労継続施設等の役割						
2	地域における就労継続施設等の役割						
3	地域における回復期リハビリテーションでの作業療法士の実践						
4	地域における回復期リハビリテーションでの作業療法士の実践						
5	通所リハビリテーションの役割						
6	通所リハビリテーションの役割						
7	CI療法の基礎						
8	CI療法の基礎						
9	高次脳機能障害へのアプローチ						
10	高次脳機能障害へのアプローチ						
11	回復期の対象者へのアプローチ						
12	脳卒中片麻痺患者への運動機能アプローチ						
13	脳卒中片麻痺患者への運動機能アプローチ						
14	老年期障害へのアプローチ						
15	老年期障害へのアプローチ						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】							
【準備学習・時間外学習】							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は課題を50点、定期筆記試験を50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							